

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090900034		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホーム ふゆざくら		
所在地	藤岡市浄法寺1814-1		
自己評価作成日	平成23年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関や扉等、防犯を目的とした以外では、利用者様の今までの生活の実現に配慮する為、施設内の鍵をかけないようにしています。利用者様には、この地域で生活をしている住民という事に気を配り、地元で開催している行事には積極的に参加し、施設や人との触れ合いを大切にしています。施設では気軽に地域の方と触れ合う為の行事を開催し、福祉関係機関と密に連携を取り合う事で、利用者様が自分らしく安心した生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鍵をしないケアを実践している施設である。利用者の尊厳を守り職員はそれを大切にしている。鍵を掛けないケアが職員の見守る力を養い、サービスの質を向上させている。地域との関係も築かれ地域と共に歩むグループホームとなっている。職員は自分の家族を入所させたい施設を目指して日々努力している。食事にもこだわりがあり1日30種類の食材を取入れた食事を提供している。又、美味しいお米と水にもこだわりを持っており、食べる楽しみと健康を大切にしたケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度のうち定期的にグループホームとして事業所の理念を管理者と職員皆で作成し、それを事業所玄関に掲示し、実践している。	法人理念のほかにグループホーム独自の理念を作り上げている。理念は管理者が噛み砕いて職員に説明し共有している。回想法など用いながら職員は利用者の理解に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で生活しているという意識を強く持ち、小学校からの運動会の招待、地域開催の春や秋祭り、どんどん焼に参加し、グループホームでも納涼祭に地域の方を招いている。	事業所から地域に空き場所の利用を、地域からはコミュニティセンターの利用をお互いに施設を提供しあう体制が出来ている。地域の行事に参加したり、地域の人をホームに招待したりして交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの行事、納涼祭を開催し、ご家族、地域の方を招き、利用者様と交流する中で、認知症の方の理解を深めてもらうよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で2か月に1回の事業所での活動状況の報告と、参加者より意見要望を聞き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、行政・地域・事業所の関係者や家族等が参加して開催されている。事業所からは利用者の状況や行事等の報告をし、参加者による意見交換を行っている。地域と事業所がお互いの施設を利用しようとの話し合いが行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議で市担当者と連携している。また、空所連絡し協力して頂いている。事業管理者とグループホーム地区担当者が連絡を取り合い、グループホーム地区担当者が市の担当者に報告、相談等を行っている。	管理者と法人のグループホーム担当者は密に連絡を摂り情報を共有し、行政との連絡や相談事は法人のグループホーム担当者が窓口となっている。管理者も運営推進会議の案内等を持って行政に出かけ情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して玄関には鍵をかけず、利用者様が外に気軽に出る事を目的に含め、また、誰でも気軽に寄って頂けるように配慮している。また、職員が身体拘束の研修に参加している。	月に一度の職員会議などで抑制について話し合いを行っている。法人の研修や外部研修にも参加している。管理者は抑制や玄関の施錠をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度開催している職員会議の中で議題として取り上げ、学び、グループホームの方針として職員は、虐待はあってはならないという事を理解し、防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度を活用している。個々の必要性を関係者と管理者が話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームに入居頂くにあたり、事前に利用者かご家族に十分な時間をかけて丁寧に説明している。また、運営に重要な改定等の際にも説明を行い、理解して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族面会時に話を聞くようにしている。相談窓口を設置している。	利用者に対しては居室で話を聞いたり、家族の面会時に家族の意向や要望を聞き出す努力をしている。家族が入居後自宅をバリアフリーに改築し利用者が自宅に外泊が出来るようになったことをきっかけに、他の利用者も外泊をするようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度のうち定期的に代表者と管理者は会議で話し合い、管理者は月に1度の職員会議で随時話し合いの場を設けている。また、年2回、代表者と管理者は面談の機会を設けている。	管理者は月に1度の職員会議で職員の意見を聞き、定期的に開かれる代表者と管理者の会議で職員の意向や要望を代表者に伝えている。法人代表が直接、職員と面談を行い意見を聞く機会も作っている。職員から休日の相談が出たり、モチベーションの落ちている職員を励ます場にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課制度を取り入れ、定期的に管理者と直接話し、勤務しやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者とグループホーム地区担当者は、定期的に事業所を訪れて管理者や職員の資質や能力を理解している。また、職員会議の中で勉強し、法人以外の研修の参加を促し、かつ年2回法人内の全体研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会を通じ、情報交換研修、グループホーム大会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談支援の中で利用者様の悩みや不安・要望に耳を傾け理解し、個別的なケアプランを作成しながら、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今までの介護での苦労を傾聴し、困っている事、不安な事などの要望を聞き、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談支援の中で、十分にご本人に関する生活全般の事柄を良く聞いた上で、ご本人やご家族の要望を確認し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援の中で、介護者とご本人がお互い協力しながら和やかな生活ができるように場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の状態を密に報告、相談をすると共に、関係が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、親戚、兄弟、孫等の面会時、居室のソファにてゆっくりとお茶を飲みながら過ごしている。	娘さんが馴染みの美容院へ連れて行ったり、生まれた家や墓参りに出かけたり、祭りに参加したりと以前の生活が延長できる支援がされている。かつての同業者が訪ねてきて居室で会話を楽しんでいる利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、利用者様同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所しても遊びに来てもらえるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の個性を大切にする為に、日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。意志疎通が困難な方には家族、関係者から情報を得るようにしている。	本人とは日常会話などを通して意向の把握を行い、家族の意向は面会時などで職員、ケアマネージャーが確認している。月に一度のカンファレンスの時にそれらの情報を職員は共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、職員が寄り添い、馴染みの関係を築いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に対して画一的なサービスにならないよう、それぞれの利用者様の個性を尊重し、散歩や自由な時間を過ごす等、一人ひとりに沿った支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、ケアマネージャーがご本人、ご家族に要望、意見等を聞き、職員会議、カンファレンスを行い作成している。	毎月のモニタリングを基に3ヶ月ごとに見直しが行われている。状況に変化のみられる時には随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記載、共有して見直し、定期的、または問題が生じた時点でのカンファレンスを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意見、要望に応じてサービス支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、ボランティアを招いて演奏会を開き、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医をご家族に決めて頂いている。グループホームの協力医療機関にする場合は同意を頂いている。また、協力医療機関の月2回の往診が定期的にある。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。協力病院からは月に2回の往診がある。家族が受診支援できない場合はホームで行っている。情報の交換は家族とメモや口頭で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回医療連携看護師が訪問し、その時に情報を伝え、相談、助言対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と協同しながら医療関係の情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての指針を入居前相談において、重度化している場合はご本人、ご家族等と話し合い、事業所で出来ることを説明し、必要に応じ検討している。	法人としての指針を入居時に説明をしている。重度化した場合、協力医が説明を行い家族と施設と話し合う。職員も情報を共有している。家族の意向大切にしながら話し合いを行って対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救急講習・AED蘇生法を受けている。また、マニュアルをグループホームに設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち会いと、自主訓練を行っている。また、マニュアルをグループホームに設置している。	年に2回の避難訓練、消火訓練を行っている。連絡網に地域の人も入っており、訓練にも参加している。備蓄は法人の支援で必要なものは提供されている。AEDの設置があり、地域に貸し出しを呼びかけている。	年に2回の訓練のほかに自主訓練をお願いしたい。回数を増やす事により体が訓練を覚えるようにしてもらいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。	呼名は姓にさん付けとなっている。名前を呼んで欲しいという利用者さんには同意を取っている。入浴は一人ひとりの入浴対応、トイレ誘導は周囲に配慮し耳元で行っている。本人が決定できる言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、ご本人が答えやすく選びやすいような働き掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。また、体調を見ながらご本人の希望を確認し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合った身だしなみを尊重し、希望により2ヶ月に1回出張美容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を取り入れた献立で、職員と一緒に食べている。また、利用者様と一緒に後片付け、食器拭き等をしている。	献立は職員が立てているが、食べたいと言ったメニューはすぐに提供するようにしている。利用者は野菜の筋とりや皮むきなどの下ごしらえをし、テーブル拭きをしている。、利用者と職員と一緒に食事を楽しみ、下膳も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、形態、キザミー食、一度に必要な栄養を摂取できない場合は1日のうち何回かに分けて食事、水分摂取量を記載。栄養バランスを考え食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保持している。また、毎晩着歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見計らって、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。	オムツを使わないで排泄できる支援をしている。夜間も排泄の誘導を行ってトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を基に、牛乳、乳製品、食物繊維等を摂ってもらったり、体を動かすように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日入浴できる体制になっている。希望があれば毎日でも入浴サービスを提供できるようにしている。	週に少なくとも2回の入浴を支援している。本人が希望すれば毎日でも入浴サービスの提供は出来るが、お湯がはられているのは週に4日である。季節のゆず湯、菖蒲湯、入浴剤など楽しむ事が出来る。	利用者の希望した時や入れるタイミング時にはいつでも入浴支援ができる体制の検討をお願いしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重し、1日のうちいつでも安心して休息、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬書があり、全職員が理解している。また、症状の変化は主治医に報告し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・食器拭き・お盆拭き・テーブル拭き・カーテン閉め等をして頂き、生活にはりあいが出来るよう個々の力量に応じ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・花見・外食等、戸外に出掛けられるよう行事などを行い支援している。	車椅子の人でも散歩できるよう支援している。庭での散歩も楽しめる。夏は網戸で過ごすことが出来、外気に毎日触れている。納涼祭にはラーメン屋さんの出前出張もあった。ドライブで物産展などに行き買い物(ビビンバ等)をして施設で食べたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、ご本人の金銭管理能力を把握しながら、できる能力を生かす支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自らご家族、ご親戚へ電話、手紙を希望される時は、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、季節の飾りや利用者様の作品を飾ってある。また、和室があり、居心地良く過ごして頂いている。	天井が高く開放感がある。明るい光が広い窓から入り心地よい。畳のスペースがあり、懐かしく、落ち着ける場所も用意されている。各居室の窓は開錠され、広いベランダへの出入りは自由である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合った利用者様同士でお茶を飲みながら談話をされている。ソファの空間を設けており、そこで過ごしやすくなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談してもらい、たんす・テーブル・写真等今まで生活していた頃に使い慣れたものを用意して頂いている。	使い慣れた筆筒や家族の写真、仏壇、位牌など利用者にとって大切なものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れる様に、課題を見つけながら職員で話し合いをし、改善する工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容